

グリベック療法

ID
患者名
身長 cm
体重 kg
体表面積 m²
初回 ・ 継続 (前回 /)

印

印

血液内科

慢性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性好酸球白血病、
好酸球増多症候群

★投与量

計算値
グリベック錠 200～600mg/body mg 経口投与 分 1 食後 規定なし

★投与スケジュール…規定なし

処方用量
グリベック錠 mg
(投与日) 1 ~ 規定なし
/

★注意事項

- 急性リンパ性白血病:フィラデルフィア染色体陽性例対象
- 慢性好酸球性白血病、好酸球増多症候群:FIP1L-PDGER α 陽性例対象
- 慢性骨髄性白血病:慢性期 400mg/body、移行期又は急性期 600mg/body
重篤な有害事象がなく、白血病に関連がない重篤な好中球減少や、血小板減少が認められず、下記に該当する場合は、増量することができる
 - 病状が進行した場合(この場合はいつでも)
 - 少なくとも3ヶ月以内に投与しても、十分な血液学的効果がみられない場合
 - これまで認められていた血液学的効果がみられなくなった場合慢性期 600mg/body まで増量可能
移行期又は急性期 800mg/body(400mgを1日2回)まで増量可能
- 慢性好酸球白血病、好酸球増多症候群:400 mg/body まで増量可能

[グリベック]

- 体液貯留(胸水、肺水腫、腹水、心膜滲出液、心タンポナーデ、うっ血性心不全)が現れることがあるので、体重を定期的に測定するなど観察を十分に行い、本剤投与中に急激な体重の増加、呼吸困難等の異常が認められた場合には投与を中止し、利尿剤を投与するなど、適切な処置を行うこと
- 重篤な肝機能障害があらわれることがあるので、投与開始前と投与後は1ヶ月毎、あるいは患者の状態に応じて肝機能検査(ビリルビン、AST(GOT)、ALT(GPT)及びALP等)を行い、異常が認めら

れた場合には減量又は休薬すること

- ・ 白血球減少、好中球減少、血小板減少、貧血があらわれることがあるので定期的に血液検査(血球数算定、白血球分画等)を実施し、異常が認められた場合には減量又は休薬すること
- ・ 消化管刺激作用を最低限に抑えるため、本剤は食後に多めの水で服用すること
- ・ めまい、眠気、霧視等があらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること